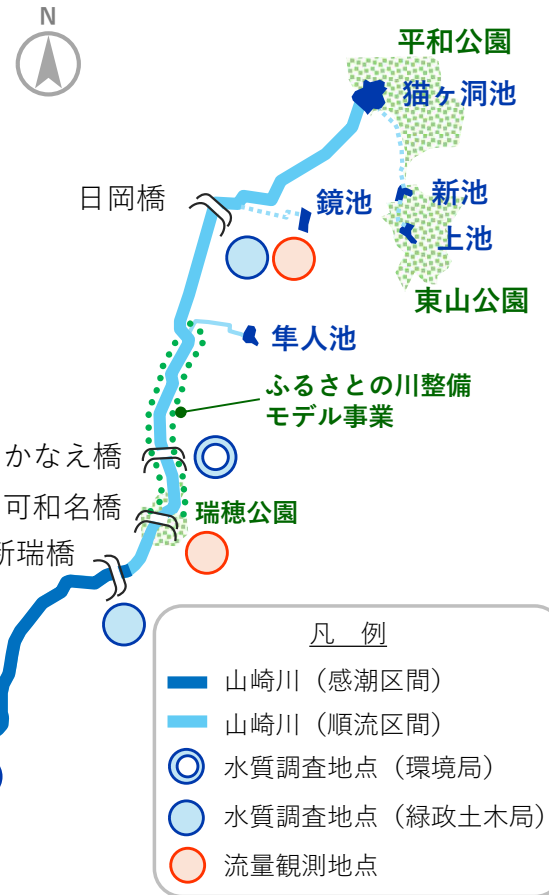


# 山崎川の生き物と水環境

## 1 山崎川の概要

山崎川は、千種区の猫ヶ洞池を源とし、昭和区・瑞穂区・南区を流れて名古屋港に注ぐ、延長約12.7kmの都市河川です。河口から11.57kmが二級河川として、残り1.16kmは準用河川として指定されています。

上流から中流にかけては、東山公園・平和公園など緑豊かな環境にあり、名古屋大学や南山大学などが立地する文教エリアを形成しています。中流部では「ふるさとの川整備モデル事業」が実施され、周辺の景色や公園と調和した景観が整えられました。特に兩岸を彩る桜並木は「日本さくら名所100選」に選ばれ、市民に親しまれる名所となっています。



可和名橋付近



日岡橋付近



## 2 山崎川の生き物

感潮区間は魚の種類が多く、ニホンウナギなどの貴重な生き物が確認されました。

順流区間では、スミウキゴリなどの回遊魚が確認されたことから、海から中上流まで魚が往来できる良い状態だといえます。

ブルーギルなどの特定外来生物が確認されており、生態系への影響が懸念されます。

- ★：名古屋市の絶滅危惧種
- ▲：特定外来生物
- ：魚が確認された区間

魚 種	感潮区間	順流区間
★ミナミメダカ, モツゴ		■
★スミウキゴリ, ウキゴリ, オイカワ, ドジョウ類, ▲カダヤシ, ▲ブルーギル	■	■
★ニホンウナギ, ★カマキリ (アユカケ), カライワシ, コイ, ゲンゴロウブナ, フナ属, ボラ, スズキ, マハゼ, ヌマチチブ, チチブ, ヒナハゼ, ゴクラクハゼ, ウロハゼ, ▲ナイルティラピア	■	
種類数	21	8

オス



オス



メス



メス



★ミナミメダカ

▲カダヤシ



★スミウキゴリ



▲ブルーギル

### 3 山崎川の水質

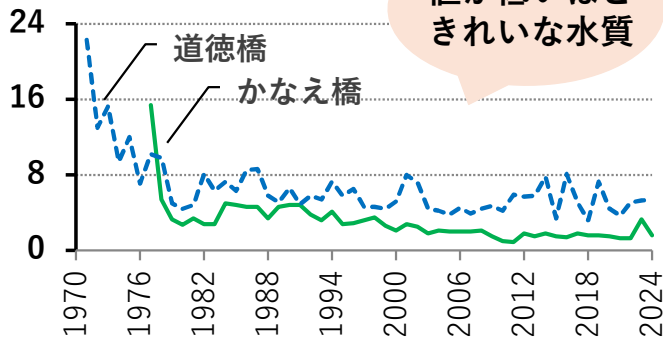
山崎川流域では、市街化の進展に伴い、家庭からの生活排水や事業排水が増加し、それらが直接山崎川へ流れ込んでいたため、川の水は汚れていました。

その後、下水道の整備・普及が進んだことで、生活排水などが直接川に流れ込むことがなくなり、水質は徐々に改善してきました。

環境保全条例などに基づき、水質の監視を行っている「かなえ橋地点」や「道德橋地点」では、BODやDOが継続して環境目標値を達成しています。

#### ◆ 水質 (BOD,DO) の経年変化

BOD 75%値 (mg/L)

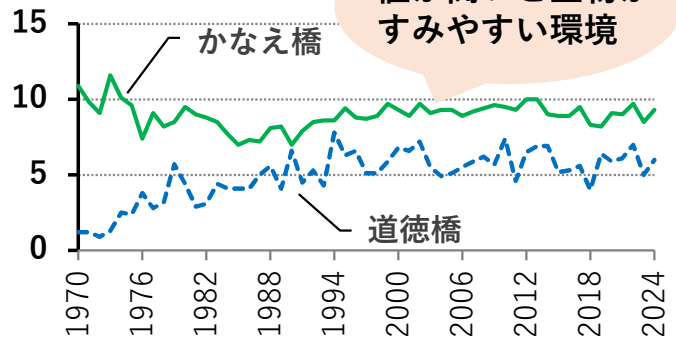


環境目標値

かなえ橋：(1974年～)5mg/L以下,(2005年～)3mg/L以下  
 道德橋：(1974年～)8mg/L以下

値が低いほど  
きれいな水質

DO 平均値 (mg/L)



環境目標値

かなえ橋：(1974年～)5mg/L以上  
 道德橋：(1974年～)3mg/L以上

値が高いと生物が  
すみやすい環境

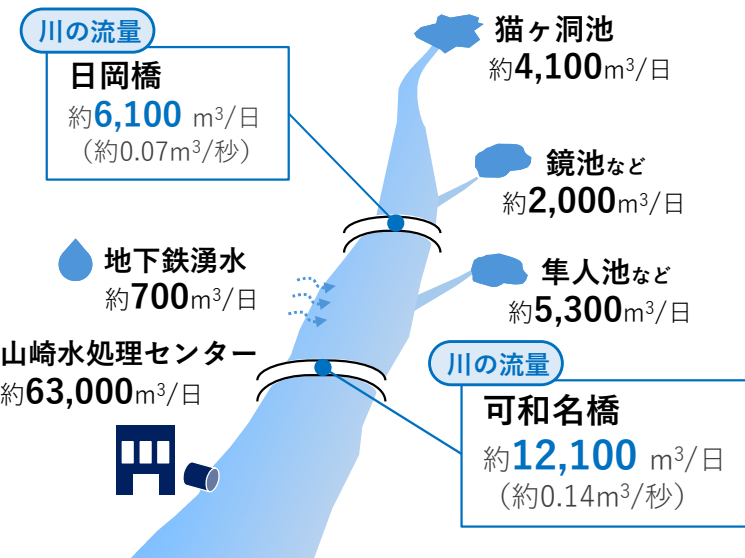
### 4 山崎川の流量

山崎川の主な水源は、上流に位置する猫ヶ洞池や鏡池などのため池、地下鉄や川底からの湧水、そして山崎水処理センターの放流水です。

晴天時には流量が非常に少ないため、1979年より猫ヶ洞池からの導水が実施されてきました。しかし、当時は池の環境保全の観点から、期間と時間帯を限定して導水していたため、山崎川の水環境が安定しないという問題が生じていました。

その後、2012年7月に導水施設の修繕および新設工事が行われたことを契機として、導水ルールが見直され、常時導水方式へと変更されました。

また、地下水の活用など水量確保の取り組みも進められていますが、現在も特に上流部では十分な水量が確保できていない状況が続いています。



#### ◆ 月別平均流量 (m³/s)

